

和歌山に、吃音のことを  
語り合える場所を創りたい。

私たち言友会（げんゆうかい）は、吃音（きつおん、どもること）があっても自分らしく、豊かに生きる方法を探すための活動を全国各地で展開しています。

今回は、和歌山県に新たな活動拠点を築くために、この「吃音のつどい」を企画しました。

日時

9月16日（日）

13:30~16:40（13:00開場）

会場

和歌山市あいあいセンター  
福祉交流館 3階 会議室第3  
〒640-8226 和歌山市小人町29番地

参加費 無料

対象

吃音のある人、吃音のあるお子さんのご家族  
吃音のある人の支援者（言語聴覚士、教員など）  
吃音に関心のある方

プログラム

言友会の紹介、きつおんQ & A  
吃音についての体験発表やグループトークなど。

第1回  
わ  
か  
か  
や  
ま  
の  
つ  
ど  
い

主催 NPO法人全国言友会連絡協議会

後援 和歌山市社会福祉協議会、和歌山市教育委員会、  
和歌山県言語聴覚士会、日本吃音・流暢性障害学会（申請中を含む）

問い合わせ 090-4199-3448（笠倉） zengenren@gmail.com



## 吃音とは

吃音は、「スムーズに話せないこと」で、かつては「どもり」とも呼ばれていました。具体的には、①繰り返し（例：おおおはよう）、②引き伸ばし（例：おーはよう）、③ブロック（例：…おはよう）の3つが「中核症状」とされています。しかし、吃音によって引き起こされる問題としては、「スムーズに話せないこと」そのものだけではなく、主にブロックが生じている時に顔面が震えたり、手足を動かしたりすることで異様な印象を与えてしまう「随伴運動」や、ブロックが解除されるまで時間を稼ぐために「えーと」などの空語句を多用したり、言いづらい言葉を言い換えたりする（例：「あ」で始まる言葉が苦手なので「兄」を「年上の男のきょうだい」と言う）ことで、意味の通じづらい発話内容になってしまう「工夫」、そして、吃ることを恐れるあまり、話すことに消極的になってしまい、場合によっては深刻な社会不適応に発展していく可能性もある「回避」などが指摘されています。そのため、表面的な中核症状の重さと、心理的な悩みの深さは必ずしも一致しません。

## 言友会とは

吃音のある人のセルフヘルプグループ（自助団体）として、1966年に東京で発足しました。吃音体験を分かち合う「例会」を中心として、会報の発行や吃音に対する理解を求めるためのイベント開催などの取り組みを通して、会員それぞれが「吃音があっても豊かに生きる」ための方法を見つけるべく、活動を続けています。

言友会には現在33の団体が加盟しており、和歌山県の近隣地域では、大阪府でおおさか結言友会、奈良県で奈良言友会、三重県で三重言友会が活動しています。

## プログラム

- 13:00-13:30 開場・受付
- 13:30-13:45 開会あいさつ・アイスブレイク
- 13:45-14:00 言友会の紹介
- 14:00-14:40 きつおんQ & A
- 14:40-14:50 休憩
- 14:50-15:20 体験談発表
- 15:20-16:20 グループトーク
- 16:20-16:40 まとめの会・閉会あいさつ

\* 内容や時間配分は変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 会場アクセス



- ・ 南海和歌山市駅から南へ徒歩10分。
- ・ 和歌山バス城北橋バス停から徒歩3分。

## 申し込み方法

下記メールアドレスあるいは電話番号にご連絡ください。なお、その際に①お名前、②お立場（吃音のある人、ご家族、言語聴覚士、ことばの教室の先生など）、③この企画どのように知ったか（例：チラシを〇〇で見た）をお伝えくださると幸いです。なお、平日昼間は電話が通じづらい場合がありますので、出来るだけメールでお申し込みください。

【メール】 zengenren@gmail.com (担当：齊藤)

【電話】 090-4199-3448 (担当：笠倉)